

「VICTORY!」は、『湘南ベルマーレ』というJリーグクラブのホームタウンに住むみなさんに、サッカーを通じてより多くの人とふれあい、地域への思いを深め、スポーツの楽しさを体感していただきたい。そんな願いを込めてASAがお届けする情報紙です。

企画・制作 / 株式会社 朝日新聞経営研究センター 協力 / 株式会社 湘南ベルマーレ

## 「やっぱりフォワードがいいよね？ 点と取ればスターだし、かっこいい(笑)」。 大井 健太郎選手が語る『センターバック』の仕事。

選手がシュートをたくさん打って多くのゴールが生まれる試合は、誰が見てもわかりやすくおもしろい。かといって、点が入らないゲームはおもしろくないのか、というそうではない。

ディフェンスのおもしろさ、といってもサッカー初心者には、攻撃とくらべて選手の貢献度もわかりにくいかもしれない。

今回はベテランのセンターバック、大井健太郎選手にディフェンスの見方について話してもらった。

—まず、センターバックの役割とそのポジションの位置を簡単に教えてください。

センターバック(CB)はゴールキーパー(GK)とともに、相手にゴールを入れさせないのが一番の仕事。今季のベルマーレはほとんど4(フォー)バックのシステムを取っているから、CBの遠藤航と僕はGKの前にいます。もちろん試合が始まれば、ボールや相手選手の位置によって上がったり下がったり。相手のゴール前でコーナーキックからのゴールを狙うこともあります。

—よくディフェンス(DF)ラインという言葉を使いますが、どういう意味ですか。

ベルマーレのDFは右サイドバック(SB)の白井幸平選手、CB2人(大井・遠藤)、左SB山口貴弘選手の4人で構成されていることが多いですね。その4人が1本の線として動くのがDFラインで、守備の土台になります。DF同士の間隔が適切でないと空きスペースができて、相手に攻め込まれてしまいます。このラインが崩れないように声かけをしてコントロールするのも、CBである僕の役割です。

—DFラインが上がったり下がったり、というのは？

守備のブロックをコンパクトに保つために、DFラインは前(相手ゴール方向)に上がったり、後ろ(自陣ゴール方向)に下がったりします。パスがどっちに出るかを見て、ボールや相手選手がベルマーレ側に向いていないとき、バックパスをしているときは怖くないので、ラインを上げます。これは、積極的に攻撃に向かっているという意志の表れでもあるんです。逆に相手がベルマーレ側を向いてボールをもったら、ラインを下げる体制に入ります。もし相手がこちらを向いてボールを持っているのにラインを上げていたら、GKとDFのあいだにスペースが空き、ロングボールを出され、スペースに走りこんだ相手フォワードにシュートを打たれてしまいます。『裏を取られる』という、よくない状況です。

ミーティングや練習の中でDF同士が共通理解をし、試合中にあわてることなく状況に応じて自然に動けるようになるのが理想です。

—大井選手はどんなCBを目指しているのですか？

ひとことで言ってしまうと「(守備も攻撃も)何でもできるCB」。相手の選手にくっついていくだけのDFは

## DF No. 3 大井 健太郎

今のサッカーでは必要とされていません。相手の攻撃からゴールを守るだけという消極的なものでなく、相手との1対1で負けたくない、つまり相手からボールを奪って味方の攻撃の起点となる、攻撃のチャンスを作り出すことのできるCB。それが今の世界のサッカーの流れであるし、そういうチームが強いです。

僕は身長が180cmですが、CBとしては決して高いほうではありません。もっと長身のFW選手もたくさんいるので、ゴール前の空中戦では高さだけではなく工夫も必要です。良いポジショニングやタイミングをはかること、相手をかかわすような駆け引きも大切です。

—守備のおもしろさってビギナーにはわかりにくいと思うのですが、ポイントはどんなところでしょうか。

先ほども話したように、DFは相手の攻撃からゴールを守るだけでなく、ボールを奪い返してそこから攻撃を始めるという起点でなければなりません。相手と1対1になったときにボールを奪うというのは、わかりやすいDFのプレーですね。でもボールのないところでちょっとDFの選手を見てください。ボールが相手陣内にあって、相手の攻撃が始まろうとしているとき、ディフェンダーはその動きを読んで、これから起こること、次にすべきことを予測しています。僕やGKの洋平さんが誰に指示をだしているか、誰と誰が話しているか、どういうポジショニングをとっているか。そのへんが観察できれば、ボールがないところでもDFの選手がサッカーしているのがわかってもらえると思います。

うまくボールを奪取できたら、さあ攻撃です。それも予測ができていて、スムーズな『攻守の切り替え』ができるのです。そこもポイントですね。

何かの本で読んだのですが、ジュビロ磐田で一緒だったハットさん(現・ガイナレ鳥取 服部年宏選手・守備的MF)が『僕のポジショニングや動きを見ていて、おもしろいと思えたら、それはサッカーがよくわかっている(見る目がある)』ということだ。』って言うんです。先を読むことに自信をもってプレーしている。すごいなあと思いました。僕は、まだまだです。

—ボールがないところでの選手の動きを見るためには、やっぱりスタジアムですね。

たしかに、テレビのサッカー中継はボールを追って映していますからSBの選手が駆け上がっているシーンなんかは画面から切れてしまいます。ピッチ全体を見ることができると競技場ならではの、生で見るとサッカーってこんなに激しいスポーツなんだ、って感じだと思いますよ。ぶつかったり転んだり。迫力のある闘う姿を見て一緒に熱くなってほしいので、ぜひ一度、競技場に足をはこんでください。

—大井選手はサッカーを始めたときからずっとディフェンスの選手なのですか。

最初はFWでしたよ。身長が高くて足も速かったから、



### 大井 健太郎 (おおい けんたろう) Profile

1984年5月14日生まれ(27歳) 静岡県藤枝市出身  
プロ入り後8年間在籍したジュビロ磐田より、今季移籍加入。  
DFラインを統率する要として、またキャプテンとして強いリーダーシップを発揮している。180cm/74kg

いいFWで活躍していました。小学生のときは地元のスポーツ少年団、中学では部活ではなくACMブルックスというクラブチームの下部組織でプレーしていたのですが、ずっと小澤くん(ベルマーレDF小澤雄希選手)と一緒にでした。母親同士が同級生で…だからちっちゃいころから知っていて、幼なじみなんです。

高校2年のときCBの先輩が卒業して、レギュラーのポジションが空いたので、そこからCBになりました。でも、くらべるとやっぱりFWがいいですよ。みんなから注目されるし華がある。今季の試合で一番印象に残っているのも、6月29日ホームの千葉戦の得点シーン。子どもが生まれたときに自らゴールを決めて、ゆりかごパフォーマンスができたことです。

—大井選手のようなベテランになると、後ろから選手を見てバランスをとるといって醍醐味もあるのでは？

うーん…そうかもしれないけれど、自分としてはまだ27歳だし、バランスばかり気にして、小さくまとまってしまうのはイヤですね。個人的にも、もっと攻撃的に挑戦していく姿勢を強く出していきたい。何でもできるCBに不可欠な、判断能力の高さも養っていきたいです。

(インタビューは11月4日に実施)



### HOMEGAME INFORMATION

#### 次節は、2011 ホーム最終戦

11月26日(土) vs. コンサドーレ札幌

14:00 キックオフ @平塚競技場

残念ながら今季のJ1昇格(3位以内)の目標は潰れてしまった湘南ベルマーレ。しかし振り返っている時間はありません。残り2試合、全力を出し切り悔いなく戦うために、選手たちは前を向き、強い気持ちで臨んでいます。最後まで走り続ける選手に、熱い応援をよろしくをお願いします。

今季最終戦は12月3日(土)12:30から味の素スタジアムにて東京ヴェルディ戦。アウェイ応援バスツアーも企画されています。詳しくは湘南ベルマーレ公式サイトをご覧ください。

10月26日に開催されたエキシビジョンマッチ。サプライズゲストの中田英寿さん(写真左)に迫るお笑いタレントのディエゴ・加藤・マラドーナさん(中央)。

